

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

名 称	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
調査実施日	平成31年1月23日・24日

②事業者情報

名 称	障害者支援施設 吉野川育成園	種 別	障害者支援施設
代表者氏名	理事長 富澤 彰雄	定 員	150名
所 在 地	板野郡松茂町笹木野字八北開拓236-1		

③総評

◇特に評価の高い点

理念、基本方針に沿った中・長期計画の策定

施設は、“共に生き ともに育つ ～つなぐ輪の広がり求めて～”を理念として掲げている。理念、基本方針等から、地域共生社会の実現に向けての施設の使命や方向性を読み取ることができる。中・長期計画の策定にあたっては、事業経営をとりまく環境と経営状況を的確に把握・分析し経営課題を明確化し、職員アンケートを実施し課題や問題点を把握している。

中・長期計画の計画期間は、平成30年度から6年間の計画であり、“利用者の高齢・重度化への対応” “地域移行” “意思決定支援” “大規模地震・津波への対応” “施設整備” を課題として挙げ、課題の解決・改善に向けて、数値目標や具体的な成果等を設定している。財務面等の裏付けとして、中・長期収支計画を適切に策定している。職員により、編成したプロジェクトチームを立ち上げ、具体的な取り組みを進めている。年度ごとの計画の進捗状況の点検・評価や中間見直しの時期を定めている。

地域共生社会の実現に向けた地域貢献の推進

施設は、ホームページや広報誌等の活用により、理念、基本方針や提供する福祉サービスの内容、財務情報を公表している。利用者や職員の地域との交流を広げるため、民生委員・児童委員との交流やスカイフェスタ清掃、秋祭り等の機会に、地域の社会資源や行事等の情報を収集している。利用者の買い物や理・美容、通院等の日常的活動は、地域における社会資源等を利用するよう推奨している。若手職員によるプロジェクトを立ち上げ、公益的な取り組みや地域貢献について検討し、利用者や職員が通学路での立哨活動を行う“地域の子どもの見守り活動”に取り組んでいる。また、施設の地域交流スペースを地域の集会や趣味の活動の場に提供したり、住民向けに、さをり織りの体験学習の講習会を開催したりしている。その際には、地域住民からの相談に対応している。施設と地域との双方向の交流に努めている。

また、施設は、松茂町と災害時の緊急一時避難所と福祉避難所の契約を締結し、地域に向けての避難所としての体制を表明し、訓練の実施や備蓄品の充実に向けて検討を重ねている。近隣法人との大規模災害時法人相互応援協定を締結し、合同研修や合同訓練を実施している。災害時における利用者の安全確保と地域の防災拠点の役割を担い、施設の有する機能を積極的に地域に還元している取り組みは評価できる。

サービスの質の向上に向けた組織的・計画的な取り組み

施設は、定められた基準に基づいて、毎年、自己評価を実施するとともに、福祉サービス第三者評価を定期的に受審している。自己評価の活用、中長期計画の策定に取り組み、規程やマニュアル等の整備を図るなど、サービスの質の向上に向けての組織づくりを計画的に進めている。委員会や寮会議、職員会議、支援会議等の会議を体系的に組織し、迅速な意思決定と問題や課題の共有、取り組みに繋げ、PDCAサイクルに基づく改善に取り組んでいる。

また、定期的な利用者・保護者アンケートの実施、苦情相談や権利擁護等の福祉サービスの内容を組織的に評価を行う体制を整備している。職員は、振り返りシートを活用し、支援状況の把握・見直しを行ったり、外部の研修会に積極的に参加して技量を高め、利用者を尊重した取り組みに反映している。

◇改善を求められる点

“期待する職員像”の明確化

施設は、人事基準や一定の評価基準に基づいた、職員の専門性や職務遂行能力等を評価する人事考課制度を構築し、職員一人ひとりの質の向上を目指す目標管理制度を整備している。職員が、自ら将来の姿を描くことができる総合的な仕組みづくりを築いている。今後は、理念、基本方針に基づいた“期待する職員像”の明確化に期待したい。

情報の共有と周知

施設は、サービスの質の向上のために、法人調整会議や各種委員会、課題毎のプロジェクトチーム等による会議を開催し、PDCAサイクルに基づく改善に取り組んでいる。また、規程やマニュアル等の文書類を整備し、内容は、多岐に渡っている。今後は、利用者への一貫した支援にむけて、大規模施設としての徹底した各種情報の共有と周知の工夫に期待したい。

利用者本位をより尊重した個別支援の取り組み

施設は、利用者一人ひとりのニーズに応じた支援の実現のため、障がい特性による寮編成を行い、多様な日中活動の支援に取り組んでいる。ADL支援やリハビリ体操、さをり織り、プラスチック制作、アートサイクル、野菜の栽培等の日中活動のプログラムを実施し、活動意欲の促進や豊かな生活を支援している。余暇やレクリエーションについては、自治会やアンケート等を通じて利用者の意向を把握している。また、利用者へ、地域でのイベント情報や活動に関する情報を提供している。

今後は、日中活動に参加していない利用者が、活動やプログラム等に参加できるような取り組みに向けて、利用者の活発な自己表現や意思表示につながる意図的な支援に期待したい。利用者の気持ちや感情の表出を促すために、職員が積極的に働きかけるケースワークの充実が望まれる。